

中期選抜学力検査

検査 1

国語

解答上の注意

- 1 「始め」の指示があるまで、問題を見てはいけません。
- 2 問題は、この冊子の中の1〜4ページにあります。
- 3 答案用紙には、受付番号を記入しなさい。氏名を書いてはいけません。
- 4 答案用紙の答の欄に答えを記入しなさい。採点欄に記入してはいけません。
- 5 答えを記入するときは、それぞれの問題に示してある【答の番号】と、答案用紙の【答の番号】とが一致するように注意しなさい。
- 6 答えを記号で選ぶときは、答案用紙の答の欄の当てはまる記号を○で囲みなさい。答えを訂正するときは、もとの○をきれいに消すか、それに×をつけなさい。
- 7 答えを記述するときは、丁寧に書きなさい。
- 8 答えの書き方について、次の解答例を見て間違いのないようにしなさい。

解答例

一 火曜日の翌日は何曜日か、漢字一字で書け。……………答の番号【1】

二 次の問い(1)・(2)に答えよ。

(1) 北と反対の方角として最も適当なもの
を、次の(ア)〜(ウ)から一つ選べ。

……………答の番号【2】
(ア) 東 (イ) 西 (ウ) 南

(2) 次の(ア)〜(ウ)の数を値の小さいもの
のから順に並べかえ、記号で書け。

……………答の番号【3】
(ア) 7 (イ) 5 (ウ) 3

二		一	問題番号	答の番号	答の欄	採点欄
(2)	(1)		【1】		水曜日	【1】
【3】	【2】			ア		【2】
				イ		
				ウ		

検査	
1	
受付番号	
1 2 3 4 5 6	
得点	

人は年齢を重ねるにつれて、明示的・暗示的な社会的検閲を何度もくぐりぬけながら感情を飼い馴らすすべを覚え、しだいに疑問を疑問と感じなくなっていく。そしてたいていの場合、それが「大人になる」ことだと勘違いしてしまう。けれども自然にこみあげてくる怒りや苛立ちを抑制したり、湧き上がってくる不信や疑念を封印したりするのは、成熟の証であるどころか、むしろ退化の徴候なのではあるまいか。およそ人間であれば、いろいろなキョク面で感情の昂ぶりを覚えたり素朴な疑問を抱いたりするのは当然の反応である。そのことを隠すには及ばないし、恥じる必要もない。そうした反応ができるのは、人として欠くべからざる、ひとつの貴重な能力でさえある。だから通常の定義に逆行することを承知の上で、まず、歳を重ねてもこの能力を失わずにいることを「大人になる」ための第一条件と考えたい。

この定義を踏まえてみれば、いささか逆説的な言い方になるが、「大人になる」にはまず「子どもになる」ことが必要であるといえるだろう。子どものように悲しいことを悲しいと感じ、おかしいことをおかしと思うこと。青空を見上げているうちにわけもなく涙が出そうになったり、見慣れた道を歩いているうちにどうして自分が今ここにいるのかわからなくなったりすること。へ1) そんな「子ども」になることのできない人は、たぶん「大人」にもなることができない。へ2) ただしもちろん、いったん「子どもになる」だけでじゅうぶんというわけではない。へ3) 「大人になる」ためにはもうひとつ、不可欠の要件がある。それはさまざまな感情や疑問を生(なま)の形で吐き出すのではなく、自分の中で咀嚼し、消化した上で、他者に共有可能な形で言語化できる能力をもつということだ。この条件を満たせない限り、人はいつまでも子どものままにとどまってしまう。へ4) みずからの内部に萌(も)した曖昧な感情や素朴な疑問に的確な言葉を与え、自分以外の他者に向けて差し出すこと——これは想像以上に困難をとまなう作業であり、十全な形で実行するには、それなりの下地や素養が必要である。つまりこの作業を可能にするだけの豊富な知識や経験、そしてそれらに裏打ちされた高度な思考能力がなければならぬ。私たちはこれらの要素をひとまとめにして、しばしば「教養」という言葉で表してきた。したがって「大人になる」ためにはこの意味での教養を身につけること、すなわち「教養人」になることが、第二の条件として求められることになる。

ところで「教養人」という言葉から、あなたはどんな人間像を思い浮かべるだろうか。

「あの人は教養がある」という言い方をする場合、私たちはたいいてい、いろいろなことを幅広く知っている人、自分の仕事以外のことにも関心があり、読書量

【くくくくくく】

が豊かで、どんな話題にも合わせられるだけの知識をそなえている人のことをイメージしている。たとえば情報産業の最前線で活躍する企業人が、ふと「モンテニユも言ってますけど、人間とは、おどろくほど空しく、変わりやすく、うつろいやすい存在ですよね」などといってみせたりすると、私たちは率直に「ああ、この人は教養があるな」という印象を抱く。

逆に自分の専門とする分野のことにくら精通していても、それ以外の話題にまったく疎い人物のことを「教養人」と呼ぶ者はまずいない。『源氏物語』については生き字引のように詳しい国文学研究者が、うっかり「TPPってなんですか」などと口走ろうものなら、世間知らず呼ばわりされるのが関の山だろう。

こうしてみると、「教養人」の条件としてまず要求されるのは、複数の分野にまたがるバランスのとれた知識をもっていることであるといえそう。しかしながら、単に多くの知識を所有しているというだけで「教養がある」といえるわけではない。たとえばテレビのクイズ番組には信じられないほど博学な人がしばしば登場するけれど、彼らは「物知り」ではあっても、必ずしも「教養人」であるとは限らない。いろいろなことを知っているということは、「教養人」であるための必要条件ではあるかもしれないが、けっして十分条件ではないからだ。

では、単なる「物知り」と「教養人」の違いはどこにあるのだろうか。おそらく両者を隔てる決定的な一線は、さまざまな知識をただばらばらの断片として所有しているだけなのか、それともそれらを相互に関連づけ、一貫した思考の体系(これを個別的な「知識」と区別する意味で、仮に「知」と呼んでおこう)へと統合できる能力をそなえているのか、という点にある。なにかを知っているということは、それだけではなにを意味するわけでもなく、せいぜい「そんなことまでよくご存知ですね」と感心される程度のことにはか役に立たない。しかしそれが「知」を構築する要素として有機的に組み込まれ、いつでも適切な仕方で動員されうる状態にまで昇華されるに至ったとき、人は単なる「物知り」ではない「教養人」として振舞うことができるようになる。

ところでこのように定義された「教養人」は、断片的な知識を体系的な知へと構造化するための「軸」をもっていなければならない。それはべつにいわゆる学問である必要はなく、仕事の上でのノウハウであってもなんでもいいのだが、とにかく「これが自分の拠って立つ場である」といえるような固有の基盤、それを中心としてもろもろの情報が凝集され統合される専門性の「核」を保有していなければならない。そうでなければ、せっかくの豊富な知識もすべてが均等な重みで並列されているだけで、相互に連動することのない寄せ集めの集合体にとどまってしまうからだ。

要するに、教養人は、まず専門人でなければならぬのである。(石井洋二郎「大人になるためのリベラルアーツ」による……一部省略がある)

注

- 逆説：真理と反対のことを述べているようで、実は一種の真理を言い表している表現
- 咀嚼：文章や物事の意味をよく考えて正しく理解し味わうこと
- 反芻：繰り返してよく考えたり味わったりすること
- 萌した：芽生えた
- モンテーニュ：フランスの思想家
- 生き字引：知識が豊かで何ごとにもよく知っている人
- TPP：環太平洋経済連携協定（環太平洋パートナーシップ協定）
- 関の山：せいせい
- 昇華：ものが純化され、高められること
- ノウハウ：ものごとのやり方

(1) 本文中の **キョク面** の片仮名の部分を漢字に直し、楷書で書け。

答の番号【7】

(2) 本文中の **通常の定義** の内容として最も適当なものを、次の (ア)～(エ) から一つ選べ。

答の番号【8】

(ア) 自然に湧き上がってくるさまざまな感情を封印し、ものごとを簡単には信
用しなくなることが、「大人になる」ということである。

(イ) 歳を重ねることで社会的検閲をくぐりぬけ、自然に感情が湧き上がるよう
になることが、「大人になる」ということである。

(ウ) 心に生じるさまざまな感情を抑え込み、ものごとに疑いをもたないように
なることが、「大人になる」ということである。

(エ) 疑問や怒りなどの自然な感情を、隠そうとしたり恥ずかしく思ったりしな
くなるのが、「大人になる」ということである。

(3) 本文中には次の一文が抜けている。この一文は本文中の (1)～(4) のどこに
入るか、最も適当な箇所を示す番号を一つ選べ。

答の番号【9】

その意味では、すでに「大人である」と思っている人ほど「大人になる」こ
とはむずかしいといえる。

(4) 本文中の **教養** について説明したものととして最も適当なものを、次の (ア)
～(エ) から一つ選べ。

答の番号【10】

(ア) 心に生じる感情や疑問、それらをとらえる感受性のこと。

(イ) 豊かな知識や経験、それらに支えられた思考力のこと。

(ウ) 豊富な読書量に支えられた、さまざまな分野に関する知識のこと。

(エ) いったん「子どもになる」ために必要な、下地や素養のこと。

(5) 本文中の **率直に** の意味として最も適当なものを、次の I 群 (ア)～(エ) か
ら一つ選べ。また、本文中の **固有の** の意味として最も適当なものを、後の
II 群 (カ)～(ケ) から一つ選べ。

答の番号【11】

I 群 (ア) むやみやたらに (イ) 普段よりおおげさに

(ウ) 他の人より先に (エ) 飾りけなくありのままに

II 群 (カ) 強くてかたい (キ) そのものに限ってある

(ク) 他よりも重要な (ケ) まれにしか存在しない

(6) 次の文章は、本文中の **「教養人」** の条件 について述べたものである。

X・Y に当てはまる語の組み合わせとして最も適当なものを、後の I
群 (ア)・(イ) から一つ選べ。また、Z に入る最も適当なものを、後
の II 群 (カ)・(キ) から一つ選べ。

答の番号【12】

専門以外の複数の分野にまたがるバランスのとれた知識を幅広くもっている
ことは、「教養人」であるために X 条件ではあるが、「教養人」であ
るために Y 条件ではない。つまり、Z ということである。

I 群 (ア) X 必要 Y 十分 (イ) X 十分 Y 必要

II 群 (カ) 「教養人」は必ずさまざまな知識をもっているといえるが、さ
まざまな知識をもっている人が必ず「教養人」だとはいえない

(キ) さまざまな知識をもっている人は必ず「教養人」だといえるが、
「教養人」が必ずさまざまな知識をもっているとはいえない

(7) 本文中の **そうだ** の品詞として最も適当なものを、次の I 群 (ア)～(エ) か
ら一つ選べ。また、**そうだ** と同じ意味・用法で **そうだ** が用いられている
ものを、後の II 群 (カ)～(ケ) から一つ選べ。

答の番号【13】

I 群 (ア) 助詞 (イ) 助動詞 (ウ) 感動詞 (エ) 形容動詞

II 群 (カ) 南の島で見る夕日はとても美しい**そうだ**。

(キ) 午後は雨が降り**そうだ**と彼女は言っていた。

(ク) 彼は今度の生徒総会で意見を言う**そうだ**が本当だろうか。

(ケ) **そうだ**、次の休みの日には一緒に映画を見に行こう。

【裏へつづく】

(8) 本文中の「隔てる」の漢字の部分の読みを平仮名で書け。……………答の番号【14】

(9) 本文中の「振舞う」ことができるようになる。を単語に分け、次の〈例〉にならって自立語と付属語に分類して示したものととして最も適当なものを、後の〔ア〕～〔エ〕から一つ選べ。……………答の番号【15】

〈例〉 日は昇る。……………〔答〕 自立語＋付属語＋自立語

- 〔ア〕 自立語＋付属語＋自立語＋付属語＋自立語＋付属語＋自立語
- 〔イ〕 自立語＋自立語＋付属語＋自立語＋付属語＋付属語＋自立語
- 〔ウ〕 自立語＋付属語＋自立語＋自立語＋付属語＋自立語
- 〔エ〕 自立語＋自立語＋付属語＋自立語＋付属語＋自立語

(10) 本文に書かれている内容と一致している文として適当なものを、次の〔ア〕～〔オ〕から二つ選べ。……………答の番号【16】

- 〔ア〕 成熟した大人になろうとすることで、人間としての自然な感情をもった子どもでもあり続けることができる。
- 〔イ〕 私たちは「教養人」という言葉から、自分の仕事以外のことに関する知識も豊富にもっている人を思い浮かべることが多い。
- 〔ウ〕 特定のことがらに対して深い知識をもった人であっても、世間知らずといわれてしまうことがある。
- 〔エ〕 さまままなことについて詳しく知っているということは、それ自体が大きな意味をもつことである。
- 〔オ〕 相互に連動することのない寄せ集めの知識は、ものごとを判断するときには思考の妨げになることがある。

(11) 京子さんと太郎さんのクラスでは、本文を学習した後、本文についての意見を交換し、レポートを作成することになった。次の会話文は、京子さんと太郎さんが話し合ったものの一節である。これを読み、下段の問い①～④に答えよ。

京子さん 筆者は、自分の中に生じた **A** 能力をもっていることが「大人」になるための条件の一つだと述べているよ。この能力をもつ人を、筆者は「教養人」と表現しているね。つまり「大人」になるには、「教養人」でなければならぬんだ。

太郎さん そうだね。そして、本文にあるとおり、単なる「物知り」ではない「教養人」になるには、多くの知識を **B** としてもっているだけではなく、それらの知識を有機的に結びつけて、**C** へと構造化しなければならぬんだ。

京子さん そのためには、**D** がなければならぬと筆者は述べているんだね。それじゃあ、テーマを決めてレポートを書こう。

① **A** に入る最も適当な表現を、本文中から三十六字で抜き出し、初めと終わりの三字を書け。……………答の番号【17】

② **B** に入る最も適当な表現を、本文中から九字で抜き出して書け。また、**C** に入る最も適当な表現を、本文中から九字で抜き出して書け。……………答の番号【18】

③ **D** に入る最も適当なものを、次の〔ア〕～〔エ〕から一つ選べ。……………答の番号【19】

- 〔ア〕 ものごとを考える土台となる自分の得意な分野
- 〔イ〕 情報を相互に連動させて用いることができる素質
- 〔ウ〕 バランスよく知識を得るための基礎的な学力
- 〔エ〕 互いに結びついた知識を分類して整理できる知恵

④ レポートを書く際の注意点として適当でないものを、次のⅠ群〔ア〕～〔エ〕から一つ選べ。また、京子さんはレポートのタイトルを行書で書くことにした。行書の特徴について述べた文として適当でないものを、後のⅡ群〔カ〕～〔ケ〕から一つ選べ。……………答の番号【20】

Ⅰ群

- 〔ア〕 漠然としたテーマよりも、具体的なテーマを設定する。
- 〔イ〕 調べたことは、カードやノートを用いて工夫して記録する。
- 〔ウ〕 集めた情報をすべて盛り込めるよう、構成を工夫する。
- 〔エ〕 調べたことと自分の意見を分けて構成する。

Ⅱ群

- 〔カ〕 楷書で書くときと異なり、筆脈を意識しないことが多い。
- 〔キ〕 楷書で書くときよりも、点画に丸みをもたせることが多い。
- 〔ク〕 楷書とは異なった筆順を用いることがある。
- 〔ケ〕 点画を連続させたり省略したりすることがある。

検査1 国語答案用紙

二														一					問題 番号		
(11)				(10)	(9)	(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(5)		(4)	(3)	(2)		(1)	
㊤	㊥	㊦												㊧	㊨						
【20】	【19】	【18】		【17】	【16】	【15】	【14】	【13】	【12】	【11】	【10】	【9】	【8】	【7】	【6】	【5】	【4】	【3】	【2】	【1】	答の 番号
I ア イ ウ エ	ア イ ウ エ	C □ □ □ □ □ □ □ □ □	B □ □ □ □ □ □ □ □ □	ア イ ウ エ オ	ア イ ウ エ オ	ア イ ウ エ オ	ア イ ウ エ オ	I ア イ ウ エ	I ア イ ウ エ	I ア イ ウ エ	ア イ ウ エ	ア イ ウ エ	ア イ ウ エ	面	ア イ ウ エ	ア イ ウ エ	() ↓ () ↓ () ↓ () ↓ ()	ア イ ウ エ	ア イ ウ エ	伝 □ □ 云 □ □	
II カ キ ク ケ	ウ エ			ウ エ オ	ウ エ オ	ウ エ オ	てる	II カ キ ク ケ	II カ キ ク ケ	II カ キ ク ケ	ウ エ	ウ エ	ウ エ		ウ エ	ウ エ	() ↓ () ↓ () ↓ ()	ウ エ	ウ エ		
【20】	【19】	【18】		【17】	【16】	【15】	【14】	【13】	【12】	【11】	【10】	【9】	【8】	【7】	【6】	【5】	【4】	【3】	【2】	【1】	
□										□											
□										□											

検 査	
1	
受 付 番 号	
得 点	

採点欄

検査1 国語 正答表

二													一					問題番号		
(11)				(10)	(9)	(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(5)		(4)	(3)		(2)	(1)
㊤	㊥	㊦		㊧										㊨	㊩					
【20】	【19】	【18】		【17】	【16】	【15】	【14】	【13】	【12】	【11】	【10】	【9】	【8】	【7】	【6】	【5】	【4】	【3】	【2】	【1】
I	㊦	C	B	曖昧なくし出す	㊨	㊩	へだてる	I	I	I	㊨	㊩	㊪	局面	㊨	㊩	(エ)↓(ア)↓(ウ)↓(イ)	㊦	㊧	伝えて云わく
㊫		一貫した思考の体系	ただばらばらの断片					㊬	㊭	㊮										
【20】	【19】	【18】		【17】	【16】	【15】	【14】	【13】	【12】	【11】	【10】	【9】	【8】	【7】	【6】	【5】	【4】	【3】	【2】	【1】
		完全解答			完全解答			完全解答	完全解答								完全解答			完全解答
(各2)	2	2		2	2	2	2	2	2	(各2)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
																				配点